令和７年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第２回急変時対応部会を開催しました

〇9月2日(火)、第2回急変時対応部会を開催しました。部会員6名、市民啓発部会副部会長１名、上越地域在宅医療推進センターコーディネーター1名、事務局4名が参加しました。

＜今回の議題＞

(1)市民啓発部会との合同研修会の実施内容と実施方法についての検討

(2)第４期(令和８～10 年)に向けた課題の共有

＜部会での検討事項等＞

(1) 市民啓発部会との合同研修会について

①研修の目的について

・専門職が平時から急変時における場面(状態)に応じたアプローチを考えることができるようになることに加え、その考えを“共有”することが大切ではないかという意見があったため、“共有”をキーワードにした目的を設定する。

②開催方法

・対面方式で開催する場合、グループワーク以外の部分をアーカイブ配信すると良いのではないか。

・開催日について、開業医の参加に配慮するのであれば、平日の 19 時から１時間半程度が現実的ではないか(時期は 11～12 月を想定)。

③研修内容

・個人ワークの時間が必要か否かについては、両部会で様々な意見が出ていたため、事務局で再検討する。

(2) 第4期に向けた医療・介護連携における課題の共有

(包括)

・本人の想いを聴くための対人支援スキルの強化や、現在地域にある ACP の啓発ツールを周知していけるようにしていく必要がある。

(訪問看護師)

・記録業務を簡素化できると良いが、チェックをつけるだけの記録では、本人の細かい状態が伝わらず困ることもある。

・個人情報の保護を理由に、情報の共有が難しくなってきている。

(病院)

・後期高齢者が増えてくるといわれているが、現場では施設入所を望む人が多い。在宅患者(利用者)が増えていくのか、疑問に感じている。

(介護支援専門員)

・一昔前は要介護3以上でも在宅で介護している方はいたが、最近は施設入所を選択する人が増えている。

・本人の想いをつないでいくことが介護支援専門員の仕事だと思っている。本人がどのような状況であっても、本人の想いが途切れることのないように、地域の中で共有できる仕組みを考えていく必要がある。

(医師)

・急変時では、家族から正確な情報が伝わらないことがある。

(救急隊)

・在宅医療と介護の連携に取り組んでいる先進地から話を聞く研修ができるとよい。

(薬剤師)

・顔の見える関係づくりが大切。

・感度良く、本人の想いや情報を引き出すスキルも必要。そしてそれらの情報を、DX を活用して効率的に活用していく必要がある。

◇次回部会:令和８年１月頃を予定